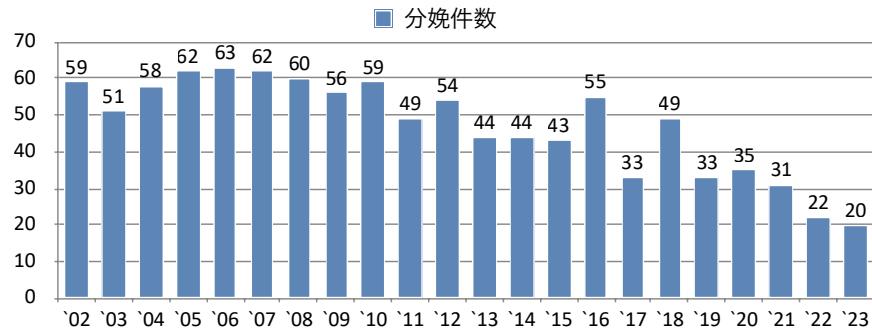
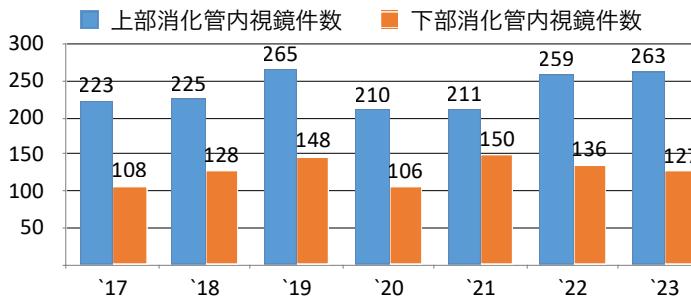


## お産

以前は里帰り分娩なども多く年間50~60件はありましたが、この10年ほどは減少傾向にあります。若年層の人口減少や医療者的人材不足などが要因と考えられます。



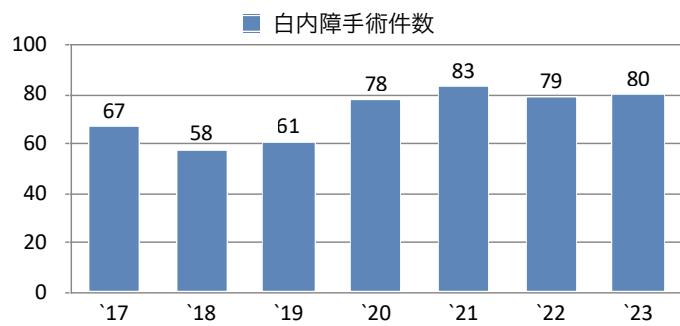
## 消化管内視鏡



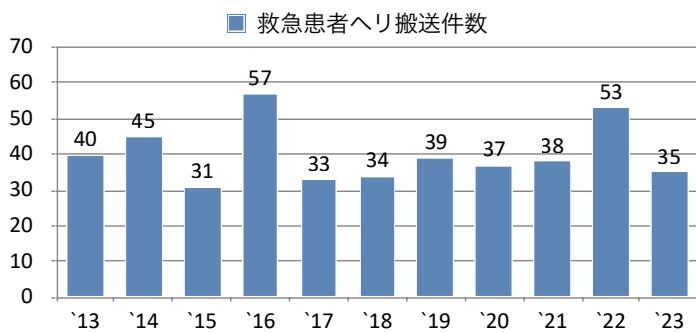
消化管内視鏡は本土から日帰りで来られる専門医が定期的に実施し、比較的緊急性のある場合には内視鏡のできる常勤医が不定期で実施します。コロナ禍においては、緊急以外の内視鏡検査制限が学会より提言されたため当院でも専門医の来島を制限しています。しかしこれにより検査予定が数ヶ月も延期となるため、内視鏡のできる常勤医によりできる限りの検査体制を維持しました。

## 白内障手術

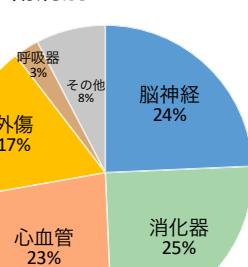
白内障手術を2013年より実施しています。日本医科大学より専門医に来島していただき、2ヶ月ごとに10~15件の手術を行っています。コロナ禍においては、航空機の減便や、術前点眼処置のための院内待機場所が制限される中で、専門医の先生方のスケジュール調整と徹底した院内感染予防対策により、件数を制限することなく手術を遂行することができました。



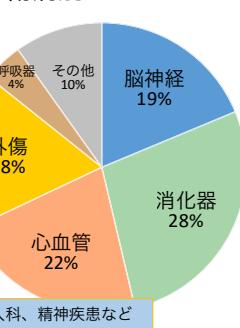
## 救急ヘリ搬送



傷病別2006-2011

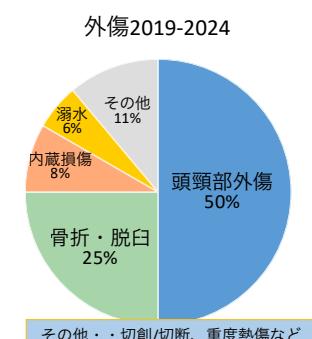
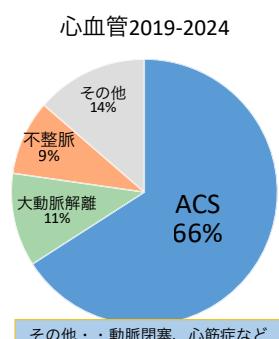
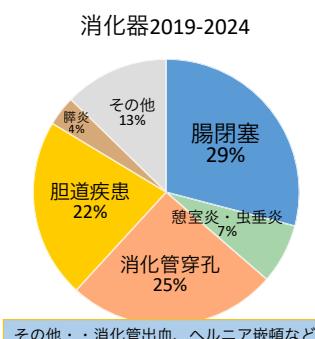
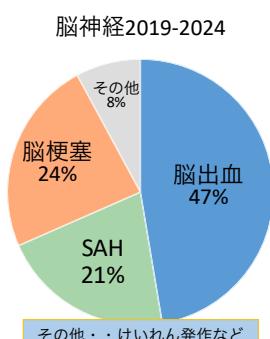


傷病別2019-2024



当院で対応できない救急症例は本土の専門病院へドクターへリ搬送となります。ヘリ要請から本土病院到着までおよそ4時間半~5時間を使い、悪天候時には半日以上かかることがあります。

搬送となった傷病は脳神経系、消化器系、心血管系の疾患が多く、この比率は昔と比べて大きく変化はありません。



傷病の詳細では、主に緊急の手術やカテーテル・内視鏡治療などの専門的治療が必要とされる疾患が大半を占めています